北山川筏下り

1603～1868 年の江戸時代から 20 世紀半ばまで、北山村は伐採産業の中心でした。この地域の木材は熊野川の河口にあり沿岸の砦である新宮城の建設(1619～1633 年)や、西日本のその他の主要な防御構造に使用されました。北山村で伐採された丸太は、北山川と熊野川に運ばれた後、新宮で売られました。村人は丸太を固定して長いいかだを作り、下流へと操縦していました。新しいダムによって北山川の一部が不通になる 1965 年頃まで、この方法は使用されていました。

今では当時に村で作られていたものに似たいかだで、北山川の一部をめぐることができます。 いかだは比較的穏やかで風光明媚な 5.5 km を下っていきます。流れが急な場所では、立ち上がって手すりにつかまっている必要がありますが、穏やかな場所では、座ってリラックスすることができます。いかだの長さは 30 メートルで、複数の丸太をつなぎ合わせて作られています。江戸時代のいかだよりはるかに小さいですが、合計で数トンの重さがあります。 もともと、いかだは新宮で解体され、木材として販売されていました。 今日ではクレーンを使用して水から引き出され、トラックで上流に運ばれます。